

## 茨城の EM 活用は他の見本となる素晴らしい事例 善循環の輪茨城の集い in 石岡

大型で暴風雨を伴った台風 24 号の日本列島縦断が心配されるさなかの 9 月 29 日（土）、茨城県石岡市民会館で「善循環の輪茨城の集い in 石岡」が開催された。

この悪天候で主催者の方々は集客を心配したが、当日は 400 人を超える方々が会館ロビーを埋め尽くし、午後からの事例発表なども会場席が 7~8 割を占めるほどの盛況であった。

当日の午前中は集いの実行委員会長で U-ネット茨城県顧問でもある鈴木せつ子さんの挨拶に続き、地元石岡市の今泉文彦市長の歓迎の挨拶もあり EM が盛んな茨城県らしい盛り上がりの準備はできた。

引き続き比嘉照夫教授の自伝ともいわれる映画「蘇生」の上映が行われた。上映直前には白鳥哲監督の舞台挨拶があり、白鳥ファンにとっては監督の生の声が聞ける絶好の機会となった。

会館ロビーでは茨城県ならではの野菜・果物は販売された。東京で好評な野菜ブランド「EM そだち」もあって、美味しい上に体に良いとの評判の野菜・果物は完売状態であった。同時にロビーの一角では EM 関連のワークショップ、活性液づくり・ボカシづくり等のほか最新技術「結界・整流」の説明や作り方も注目されていた。

午後からの事例発表や比嘉教授による特別講演「EM 技術の最新情報」が始まる前、石岡市の盲重複障がい者支援施設「光風荘」カムカムバンドの皆さんによる花は咲くなど 5 曲の演奏もあり、観客を大いに感動させていた。



EM 関連商品の販売でごった返す会場ロビー

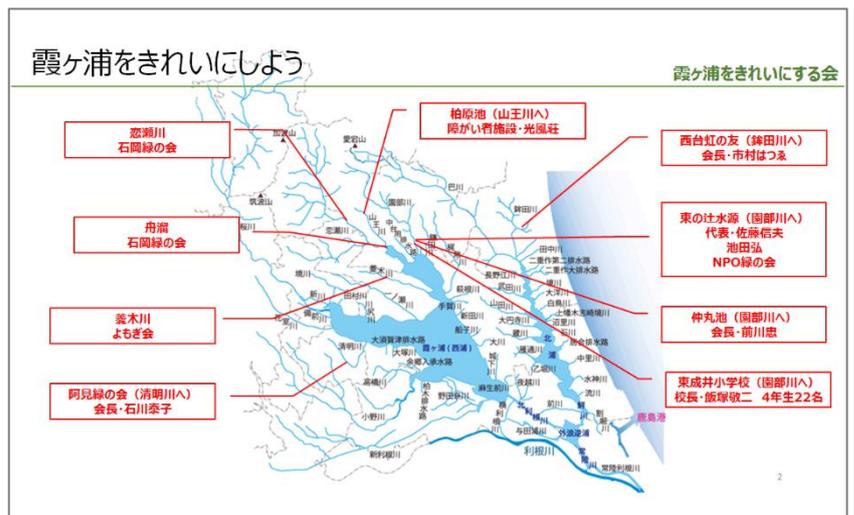


カムカムバンドの演奏で会場は感動に包まれる

最初の事例発表は霞ヶ浦をきれいにする会の「私たちの活動」として当会長でもある鈴木せつ子さんが所属 8 団体の地元での河川湖沼浄化活動。

続いては行方市で EM を使用して「EM そだち」野菜を栽培している北浦みつば連合出荷組合の EM 活用例で、代表の前田恵助氏が EM 技術を導入して 25 年の成果などの発表。

最後の事例発表は鉾田市で養豚業を中心に生産・加工・販売の六次産業化を成功させている方波見勝久氏による「持続可能な循環型社会の取組」の発表であった。発表した 3 団体の活動は地道だがしっかり根付いた EM 活動で、他の見本となる素晴らしい事業の発表であった。  
【取材：大山正治】



たくさんのグループが参加する霞ヶ浦の浄化活動